

地方における戦後都市計画

戦後復興から現在まで

浅野純一郎（豊橋技術科学大学大学院教授） 著

本体価格 6,800 円＋税

A5 判上製カバー装 本文 364 頁 ISBN 978-4-8055-0883-1 C 3052 2020 年 12 月刊

都市はいかに 再構築されたのか

戦災によって被害を受けた地方都市に焦点をあて、戦災復興都市計画の特徴やその後の市街地形成経過への影響を明らかにしていくことで、戦後の都市計画や市街地展開の実態に迫る。



中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱い

人口減少時代の都市の将来を過去から探る——

目 次

序

第一部 戦前都市計画との関係からみた戦災復興都市計画

- 第1章 旧都市計画法及び市街地建築物法による初期地域指定の方法
- 第2章 地方都市の戦災復興都市計画における用途地域指定の特色
- 第3章 地方都市の戦災復興都市計画における街路計画の立案とその特色
- 第4章 個別都市の戦災復興都市計画における当初計画理念
- 第5章 都市計画の執行経過からみた戦災復興都市の特徴と意義

第二部 戦災復興都市の戦後市街地形成

- 第6章 戦災復興都市の高度経済成長期における市街地形成経過と当初線引き画定との関係
- 第7章 非戦災復興都市の高度経済成長期における市街地形成経過と当初線引き画定との関係
- 第8章 戦災復興都市の高度経済成長期における市街地拡大経過の特徴

第三部 戦災復興土地区画整理事業と中心市街地活性化事業との関係性

- 第9章 戦災復興事業基盤と中心市街地活性化基本計画との関係性
- 第10章 戦災復興地方都市における中心市街地活性化事業による土地区画整理事業の計画特性
- 第11章 戦災復興地方都市における中心市街地活性化事業による駅前空間の変容特性

結 章

あとがき

浅野純一郎（あさの・じゅんいちろう）

1968年生まれ。豊橋技術科学大学大学院教授。

豊橋技術科学大学大学院修士課程修了、2015年4月から現職。博士（工学）、一級建築士。

著書に『戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開』（中央公論美術出版、2008年）、共著書に『中心市街地再生と持続可能なまちづくり』（学芸出版社、2003年）、『人口減少時代における土地利用計画』（学芸出版社、2010年）、『都市縮小時代の土地利用計画』（学芸出版社、2017年）など。

関連書籍

戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開

浅野純一郎 著

戦前期の全国42地方都市の沿革、成立、変遷を論じた現代につながる都市のコスモロジー。対象都市・札幌、函館、小樽、仙台、新潟、長岡、富山、高岡、金沢、長野、松本、岐阜、大垣、静岡、浜松、清水、豊橋、岡崎、一宮、津、堺、尼崎、西宮、和歌山、岡山、広島、呉、下関、高松、丸亀、高知、福岡、門司、小倉、若松、八幡、戸畑、大牟田、長崎、佐世保、熊本、大分、鹿児島

本体価 9,000円＋税

A5判上製両入 本文 338頁 ISBN 978-4-8055-0583-0

旧軍用地と戦後復興

今村洋一 著

終戦によって遊休国有地となった旧軍用地が、どのように都市に組みこまれ、戦後復興が図られたのかを、全国的な動態と個別の都市の具体例から包括的に考究し、戦後史としてだけでなく、人口減少時代を迎えた現代の土地活用と都市計画の課題にも広く示唆を与える気鋭の論文集。

本体価 6,500円＋税

A5判上製カバー装 本文 368頁 ISBN 978-4-8055-0780-3